

令和5年における交通事故 の発生状況について

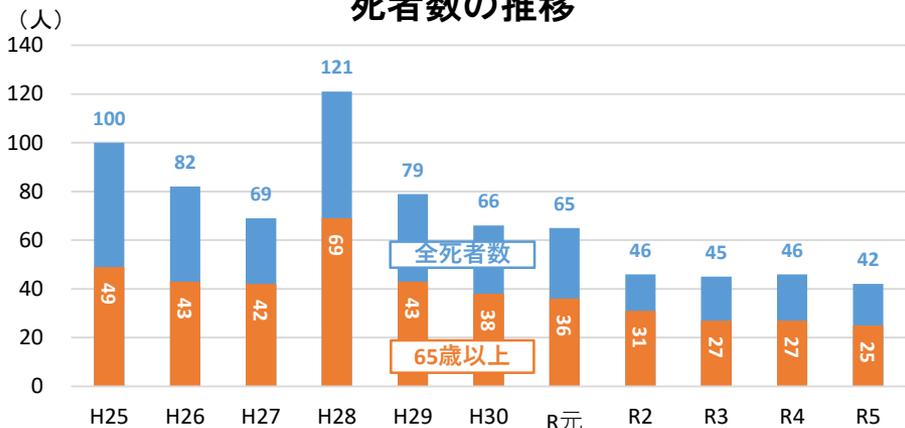
令和6年4月1日
長野県警察本部
交通企画課

- (注)・本資料は、令和6年2月14日までに入手したデータにより作成したものである。
・数値は、単位未満で四捨五入してあるため、合計等が内訳の数値と一致しない場合がある。

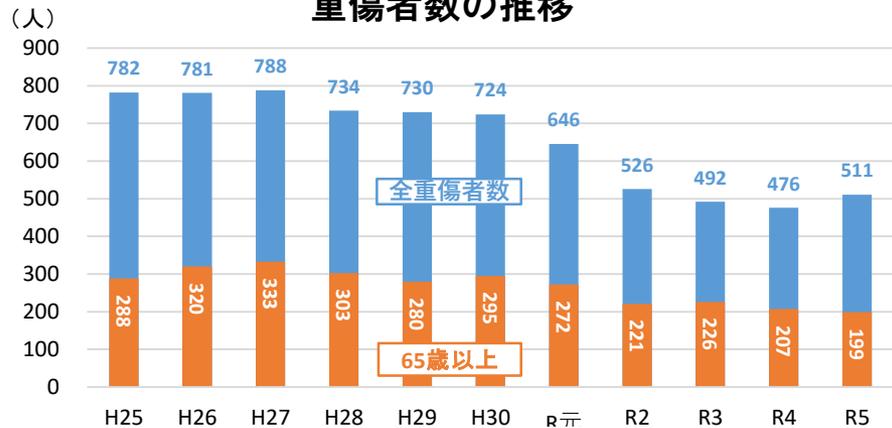
1 交通事故死者数・重傷者数の推移

- 死者数は42人で、前年比-4人、8.7%減(昭和23年の統計開始以降最少)
- 重傷者数は511人で、前年比+35人、7.4%増(前年比増となるのは平成27年以来8年ぶり)

死者数の推移



重傷者数の推移



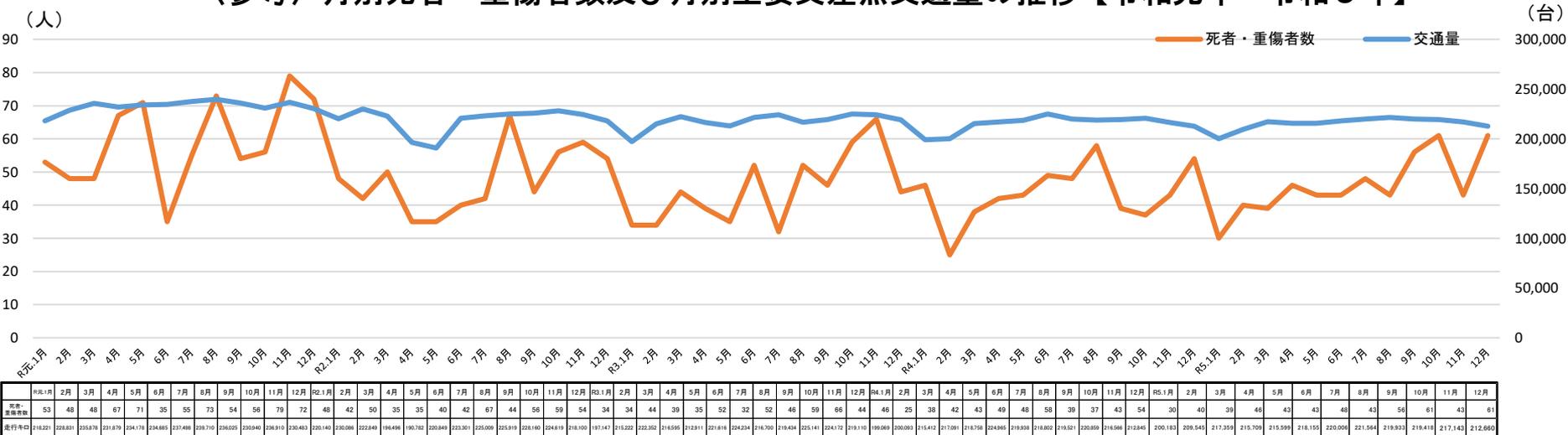
65歳以上の割合	49.0%	52.4%	60.9%	57.0%	54.4%	57.6%	55.4%	67.4%	60.0%	58.7%	59.5%
----------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

65歳以上の割合	36.8%	41.0%	42.3%	41.3%	38.4%	40.7%	42.1%	42.0%	45.9%	43.5%	38.9%
----------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

【参考】											
65歳以上の人口(千人)	599	615	627	635	641	645	648	651	654	652	—
全人口に占める高齢者の割合	28.3%	29.2%	29.9%	30.4%	30.9%	31.3%	31.6%	32.0%	32.2%	32.3%	—

(注)・人口は、長野県企画振興部情報政策課資料(各年10月1日現在)による。以下同じ。

〈参考〉月別死者・重傷者数及び月別主要交差点交通量の推移【令和元年～令和5年】

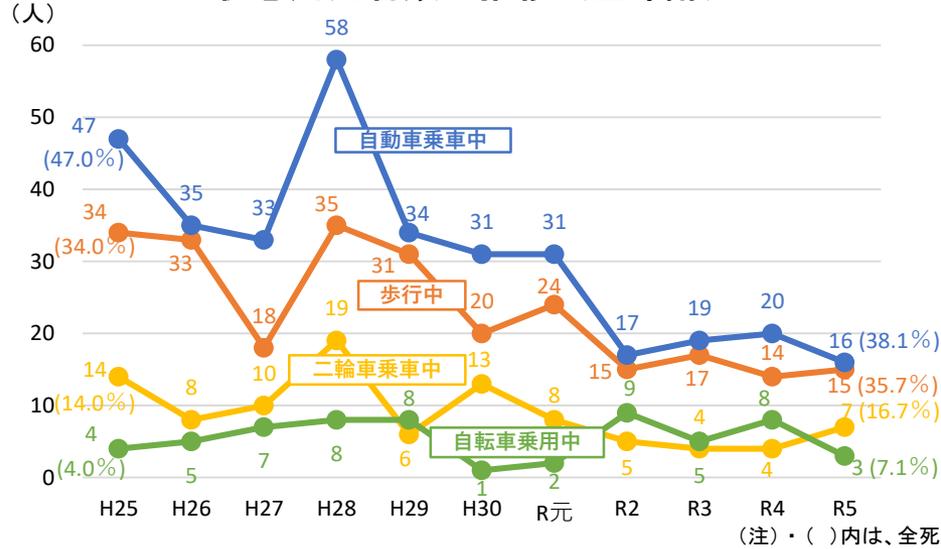


年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月																																				
死者・重傷者数	53	48	48	67	71	35	55	73	54	58	79	72	48	42	50	35	35	40	42	67	44	56	59	54	34	34	44	39	35	52	32	52	46	59	66	44	46	25	38	42	43	49	48	58	39	37	43	54	30	40	39	46	43	43	40	43	56	61	43	61
走行車台	218,221	228,831	236,878	231,879	234,178	234,685	237,488	239,710	238,026	230,940	238,910	236,483	230,140	230,086	222,849	198,458	190,782	220,849	223,301	225,000	225,918	228,160	224,619	218,100	197,147	215,222	222,302	216,594	212,811	221,818	224,234	216,700	216,434	225,141	224,172	218,110	199,069	200,083	216,412	217,061	217,768	224,946	219,938	218,802	219,521	220,858	218,586	212,845	200,183	209,545	217,359	215,709	215,599	218,155	220,006	221,564	218,933	219,418	217,143	212,660

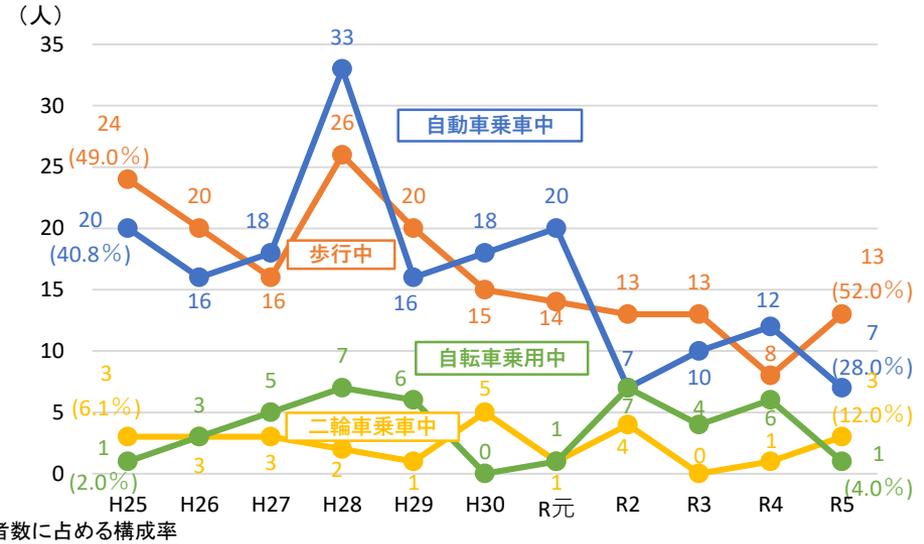
1-2 交通事故死者数・重傷者数の推移

- 状態別死者数は全年齢で、「自動車乗車中」「自転車乗用中」は減少、「二輪車乗車中」、「歩行中」は増加
- 状態別死者数は全年齢で「自動車乗車中」が最も多く、65歳以上では「歩行中」が最も多い

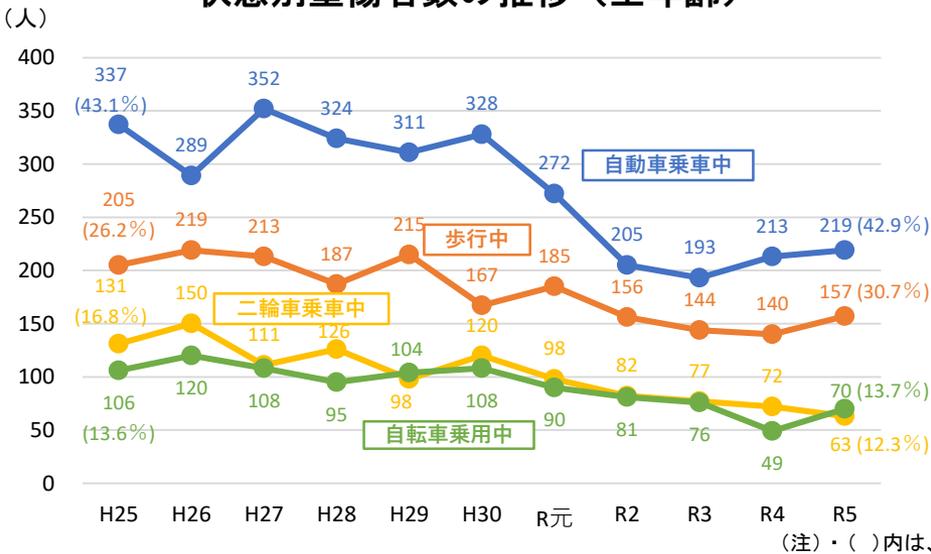
状態別死者数の推移（全年齢）



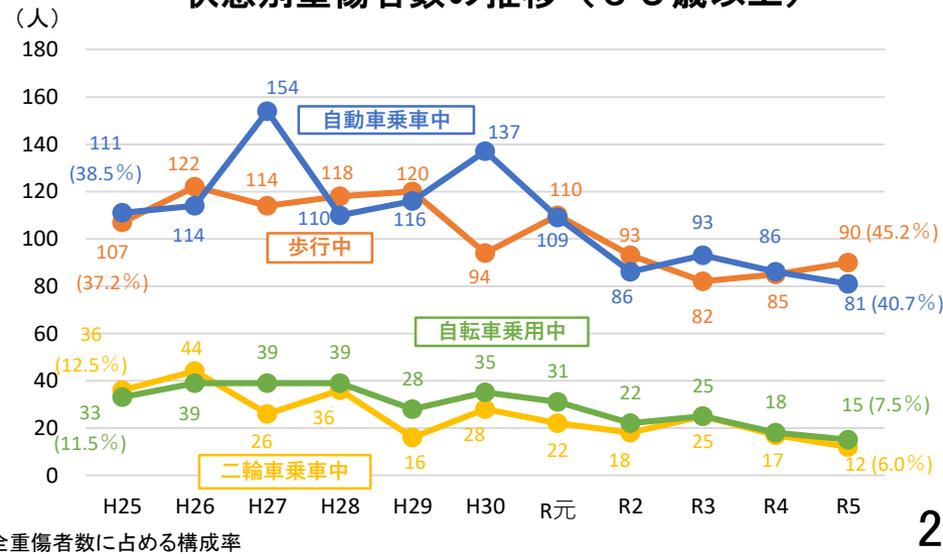
状態別死者数の推移（65歳以上）



状態別重傷者数の推移（全年齢）



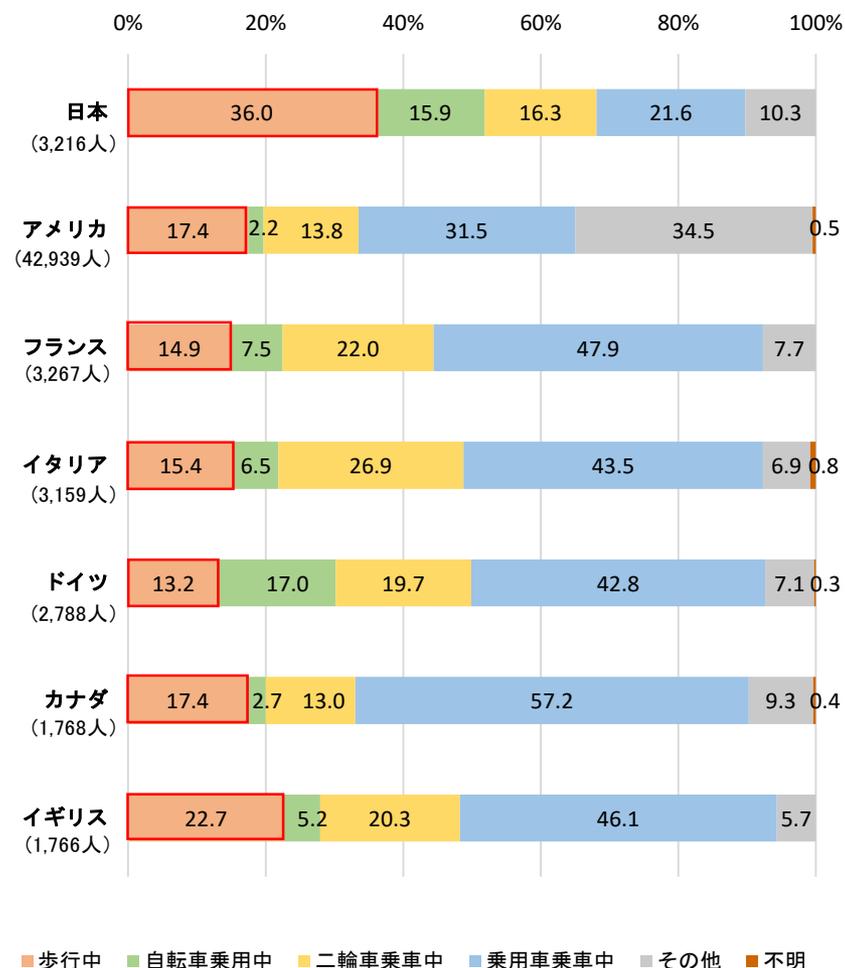
状態別重傷者数の推移（65歳以上）



1-3 交通事故死者数・重傷者数の推移(全国)

- 日本は欧米諸国と比較して30日以内死者数に占める「歩行中」の割合が高い
- 日本は欧米諸国と比較して30日以内死者数に占める「65歳以上」の割合が高い

国別状態別30日以内死者数の構成率比較【2022年】



(注)・国際道路交通事故データベース(IRTAD)資料(令和6年1月16日時点)による。
・アメリカ、カナダは2021年の交通事故死者数である。

国別65歳以上歩行中30日以内死者数比較【2022年】

	日本	アメリカ	フランス	イタリア	ドイツ	カナダ	イギリス
30日以内死者数(人)	3,216	42,939	3,267	3,159	2,788	1,768	1,766
うち65歳以上死者数(人)	1,913	7,489	882	960	1,023	391	481
構成率(%)	59.5	17.4	27.0	30.4	36.7	22.1	27.2
うち歩行中死者数(人)	877	1,389	220	287	208	95	150
構成率(%)	45.8	18.5	24.9	29.9	20.3	24.3	31.2

(注)・国際道路交通事故データベース(IRTAD)資料(令和6年1月16日時点)による。
・アメリカ、カナダは2021年の交通事故死者数である。

国別人口10万人当たり30日以内死者数比較【2022年】

	日本	アメリカ	フランス	イタリア	ドイツ	カナダ	イギリス
人口10万人当たり死者数(人)	2.57	12.84	4.98	5.35	3.35	4.97	2.64

(注)・国際道路交通事故データベース(IRTAD)資料(令和6年1月16日時点)による。

〈参考〉国別人口10万人当たり30日以内死者数【2022年】

上位5か国(少ない順)

	ノルウェー	スウェーデン	アイスランド	日本	デンマーク
人口10万人当たり死者数(人)	2.14	2.17	2.39	2.57	2.62

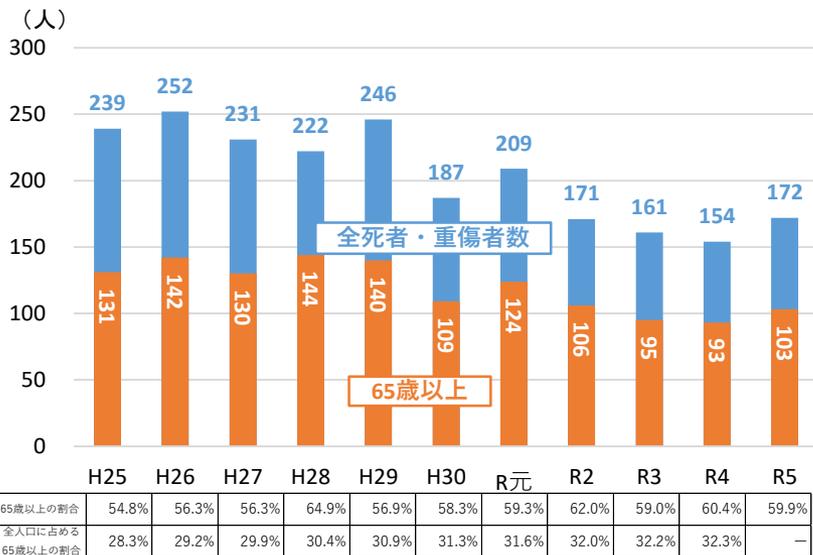
(注)・国際道路交通事故データベース(IRTAD)に加盟している35か国中の順位である(令和6年1月16日時点)。

※ 主な加盟国: 上記各国のほか、韓国、オーストラリア、アルゼンチン、ベルギー、チリ等

2 歩行中死者・重傷者数の状況

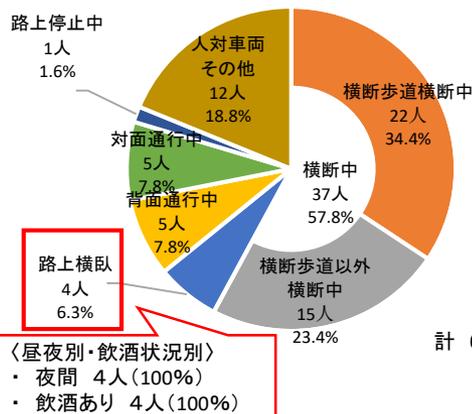
- 歩行中死者・重傷者数は増加(うち約6割が65歳以上)
- 事故類型別では、65歳未満は「横断歩道横断中」が多く、65歳以上は「横断歩道以外横断中」が多い。

年齢層別歩行中死者・重傷者数の推移

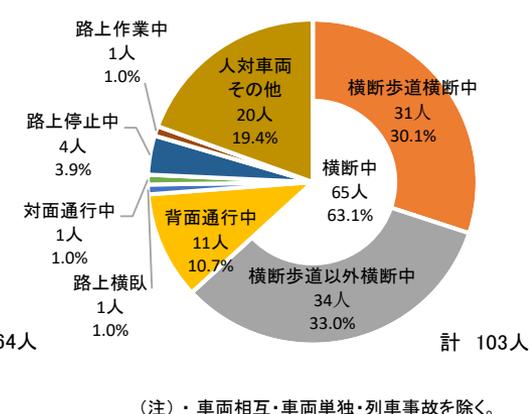


年齢層別事故類型別歩行中死者・重傷者数【令和5年】

<65歳未満>

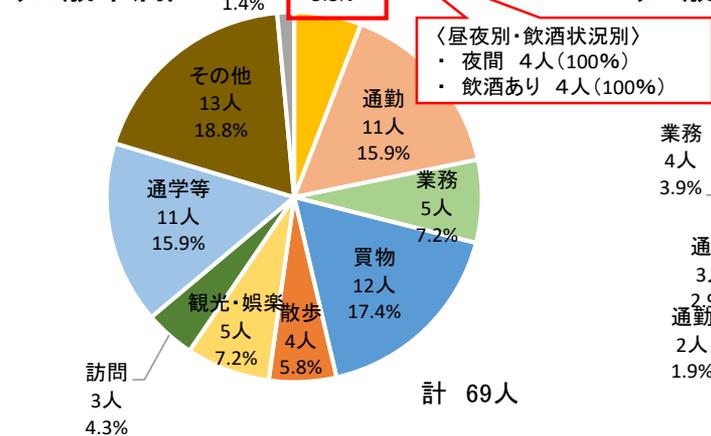


<65歳以上>

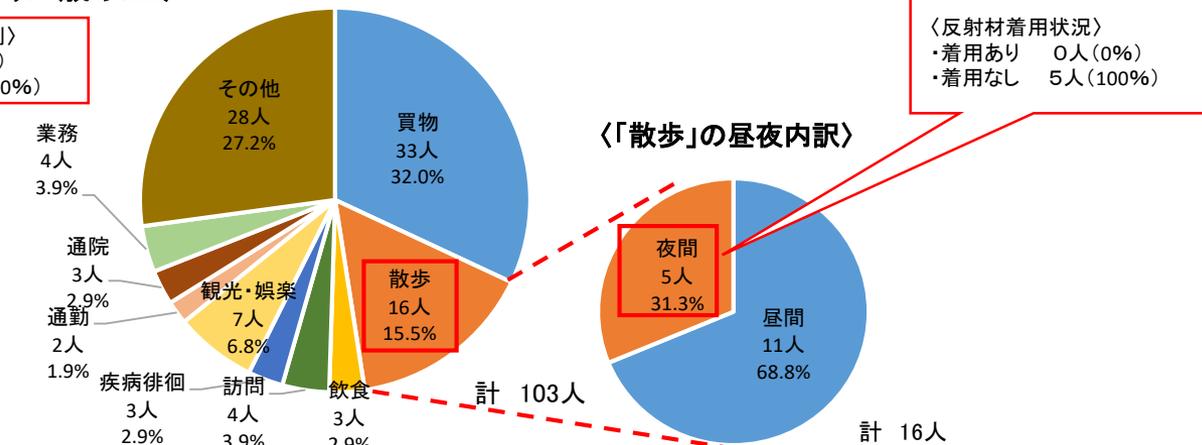


年齢層別通行目的別歩行中死者・重傷者数【令和5年】

<65歳未満>



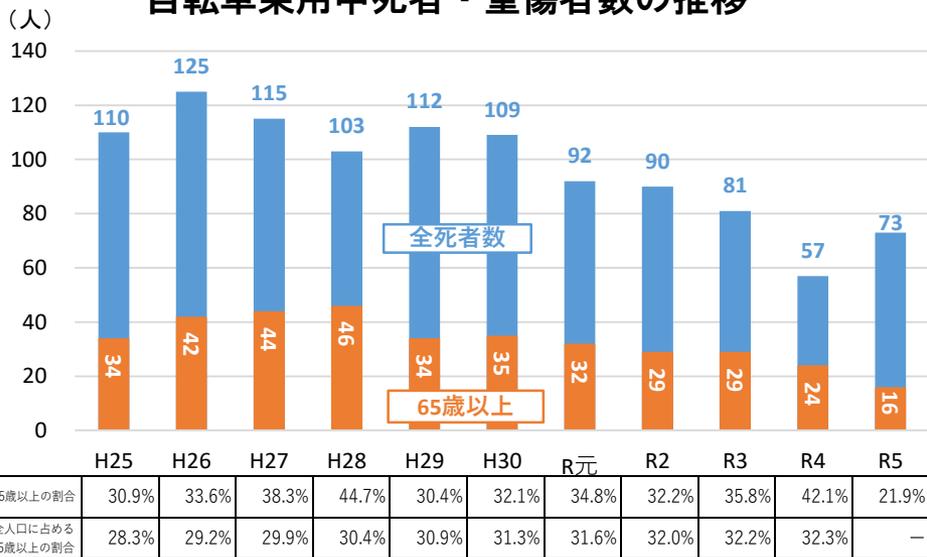
<65歳以上>



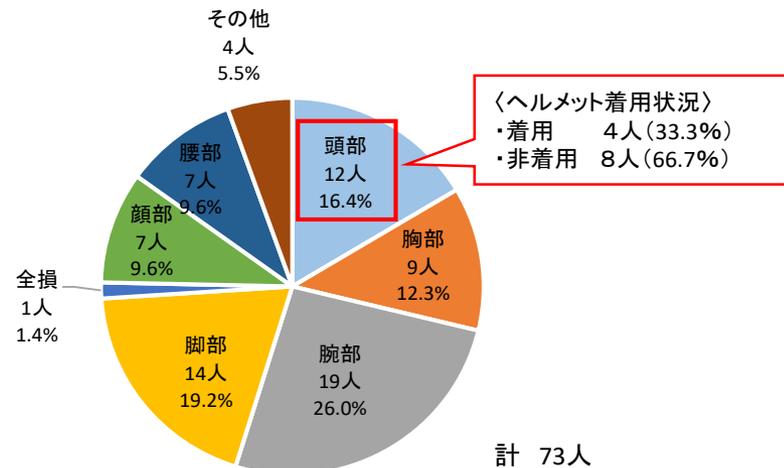
3 自転車関連交通事故の状況

- 自転車乗用中死者・重傷者の約2割が「頭部」を損傷(うち約7割は乗車用ヘルメット非着用)
- ヘルメット非着用時の致死率は着用時の約1.2倍
- 令和5年7月のヘルメット着用率は17.3%(長野県)

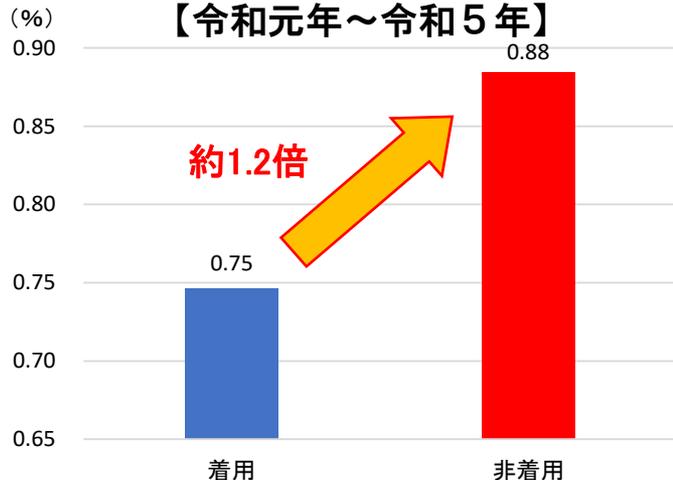
自転車乗用中死者・重傷者数の推移



自転車乗用中における人身損傷主部位別死者・重傷者数【令和5年】

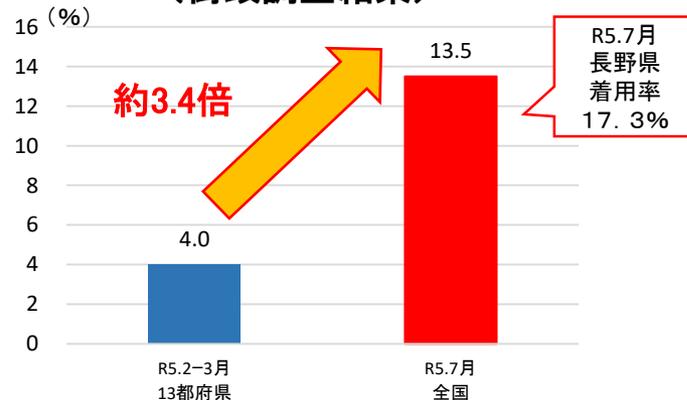


ヘルメット着用状況別の致死率比較【令和元年～令和5年】



(注)・「致死率」とは、死傷者のうち死者の占める割合をいう。

〈参考〉自転車乗車用ヘルメットの着用状況(街頭調査結果)

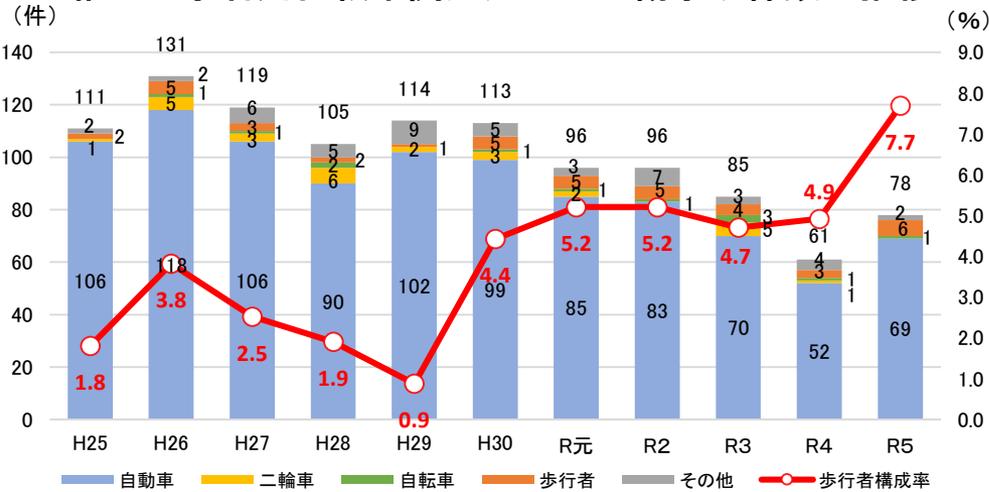


(注)・警察庁が実施した令和5年2月～3月(東京、埼玉、千葉、神奈川、静岡、愛知、京都、大阪、兵庫、岡山、広島、福岡、熊本)の13都府県で実施)の調査結果と同年7月(全都道府県で実施)の調査結果を比較したものである。

3-2 自転車関連交通事故の状況

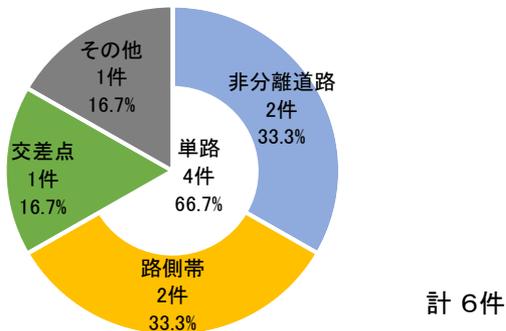
- 自転車対歩行者事故の構成率は近年増加傾向(平成25年 1.8% → 令和5年 7.7%)
- 歩道における歩行者死亡・重傷事故では自転車運転者の多くが25歳未満、歩行者の多くが65歳以上

相手当事者別自転車関連死亡・重傷事故件数の推移



(注) ・自転車運転者が第1又は第2当事者となった死亡・重傷事故について、事故の相手方となった当事者別に件数を集計したもの。
 ・自転車同士の事故は、1件として計上した。
 ・歩行者構成率とは、自転車運転者が第1又は第2当事者となった死亡・重傷事故のうち、その相手方当事者が歩行者であった割合をいう。

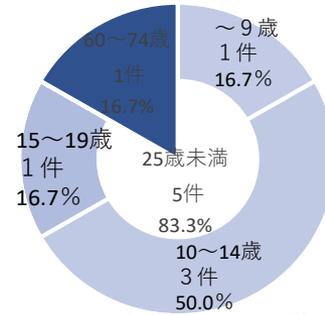
衝突地点別自転車対歩行者の歩行者死亡・重傷事故件数【令和5年】



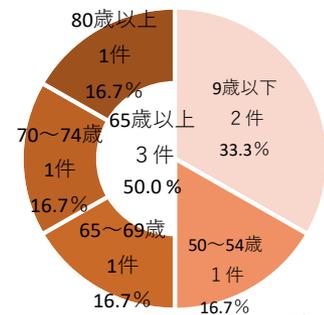
(注) ・自転車対歩行者事故のうち、歩行者が死亡又は重傷となった件数を計上した。以下同じ。
 ・「路側帯」とは、歩行者の通行の用に供し、又は車道の効用を保つため、歩道の設けられていない道路又は道路の歩道の設けられていない側の路側寄りに道路標示(白線)によって区画された部分をいう。
 ・「非分離道路」とは、中央線等により道路の中央が定められていない道路をいう。
 ・「第一通行帯」とは、中央線等により車両通行帯の設けられている道路の最も左側の通行帯をいう。

年齢層別自転車対歩行者の歩行者死亡・重傷事故件数【令和5年】

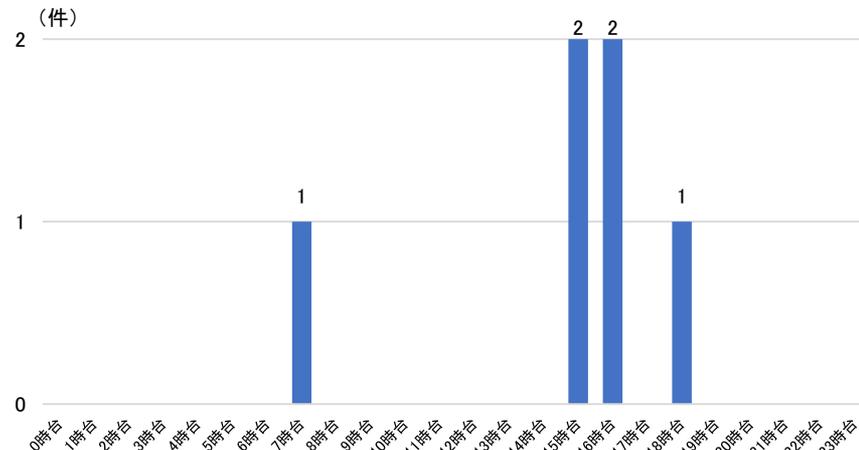
〈自転車運転者の年齢〉



〈歩行者の年齢〉



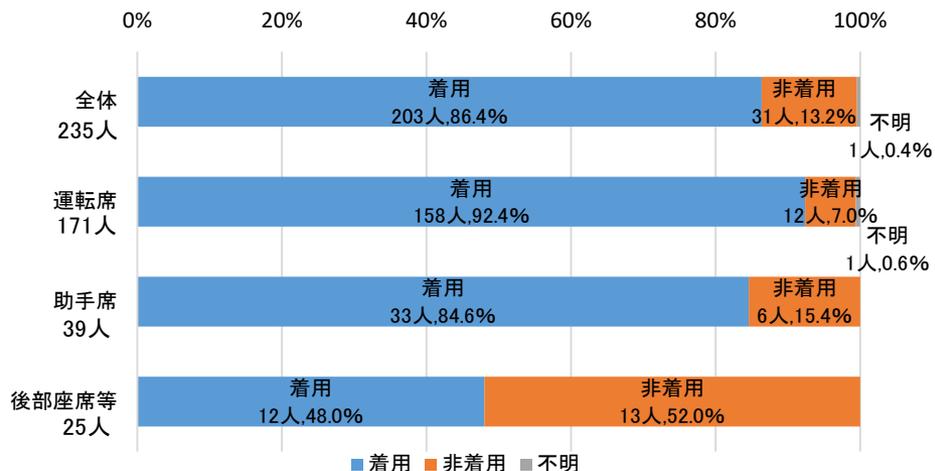
時間帯別自転車対歩行者の歩行者死亡・重傷事故件数【令和5年】



4 自動車関連交通事故の状況

- 自動車乗車中死者・重傷者の約5割がシートベルト非着用(シートベルト非着用時の致死率は約26.9倍)
- 携帯電話等使用による事故は近年増加傾向(携帯電話等使用時の死亡事故率は約5.9倍)

自動車乗車中死者・重傷者の座席別シートベルト着用率
【令和5年】



(注) ・「シートベルト着用率」とは、自動車乗車中死者のうちシートベルト着用者及びチャイルドシート使用者の割合をいう。

自動車乗車中のシートベルト使用別致死率比較
【令和5年】



(注) ・「致死率」とは、死傷者のうち死者の占める割合をいう。

携帯電話等使用による死亡・重傷事故件数の推移



(注) ・第1当事者が自動車(乗用車、貨物車、特殊車)の件数である。
・携帯電話・スマートフォンの使用が要因となって発生した事故を集計した。

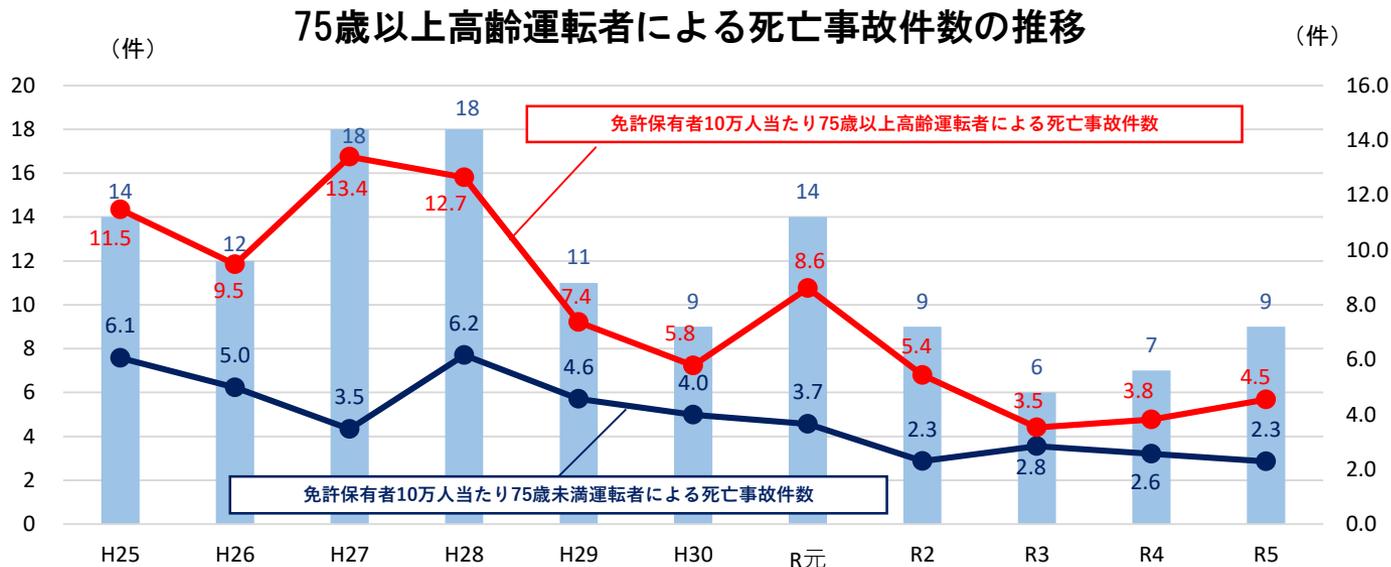
携帯電話等使用有無別死亡事故率比較
【令和5年】



(注) ・第1当事者が自動車(乗用車、貨物車、特殊車)の事故に占める死亡事故の割合(死亡事故率)について、携帯電話・スマートフォンの使用が要因となって発生した事故とそれ以外の事故を比較したもの。

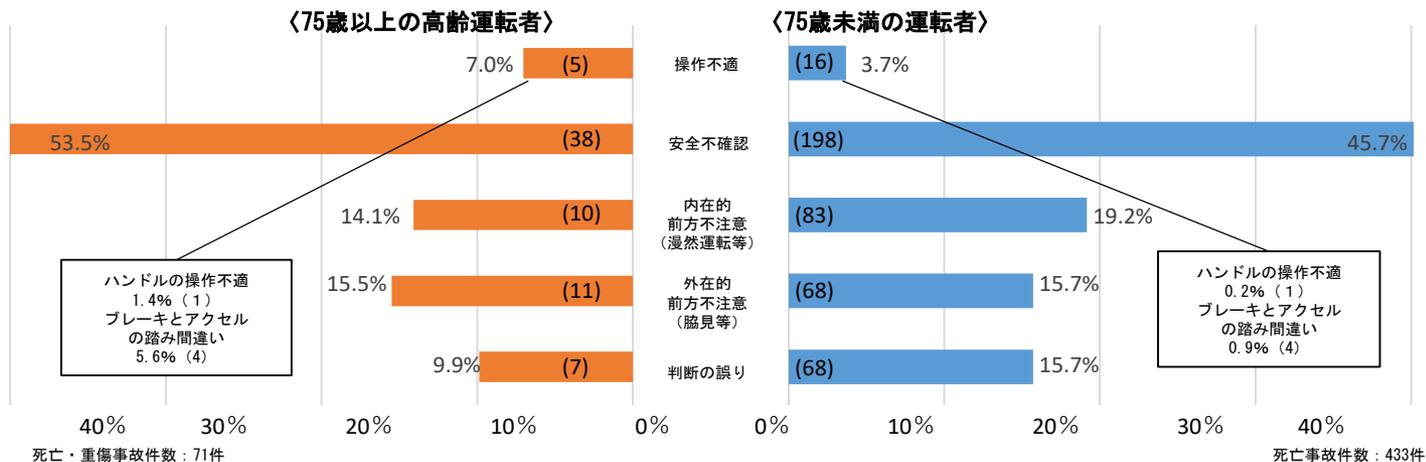
5 高齢運転者による交通死亡事故件数の推移

- 75歳以上高齢運転者による死亡事故は近年増加傾向(免許人口当たりでは75歳未満の約2倍の発生件数)
- 75歳以上高齢運転者は、75歳未満と比較してブレーキとアクセルの踏み間違いなどの「操作不適」が多い



(注)・第1当事者が原付以上の件数である。・運転者の年齢が16歳以上の事故について集計した。・算出に用いた免許保有者は、各年12月末の値である。

自動車運転者による年齢層別死亡・重傷事故の人的要因比較【令和5年】

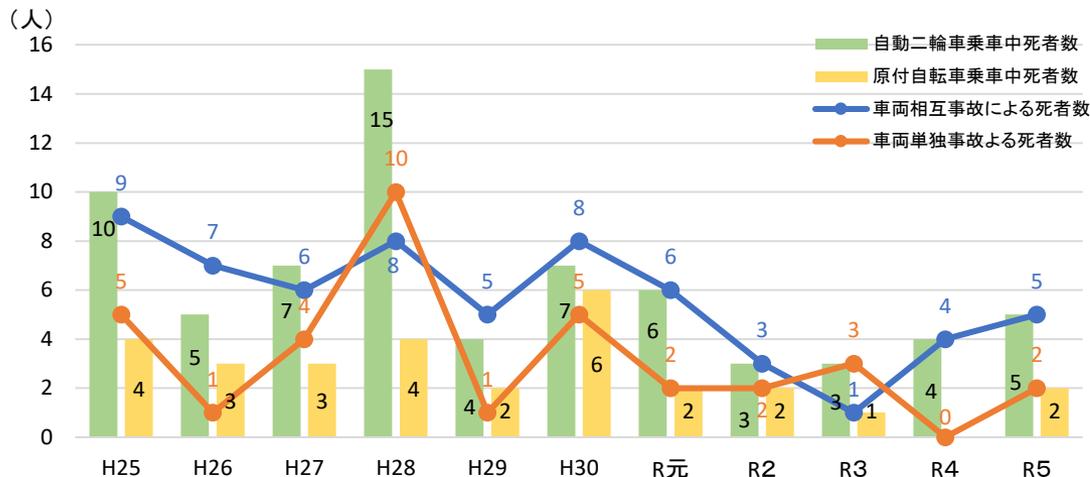


(注)・第1当事者が自動車(乗用車、貨物車、特殊車)の件数である。

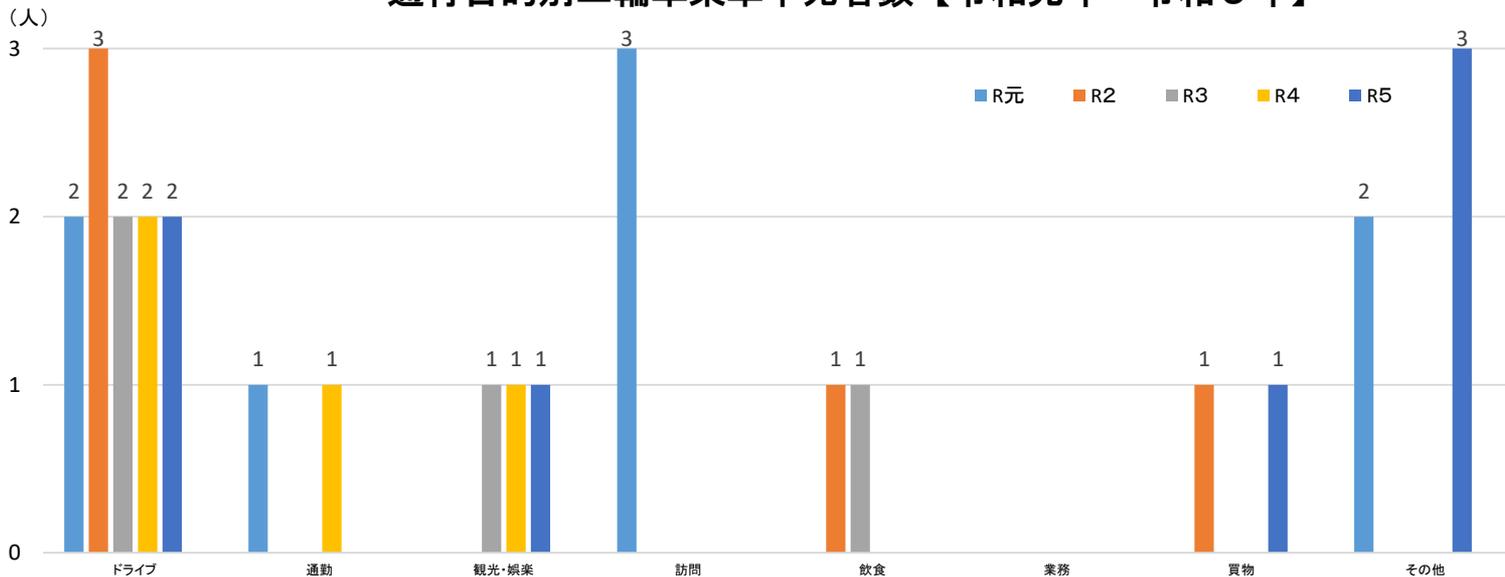
6 二輪車乗車中死者数の状況

- 自動二輪車、原付自転車ともに死者数が増加(事故類型別では車両相互事故が大きく増加)
- 通行目的別では「ドライブ」、「観光・娯楽」が多い

状態別事故類型別二輪車乗車中死者数の推移



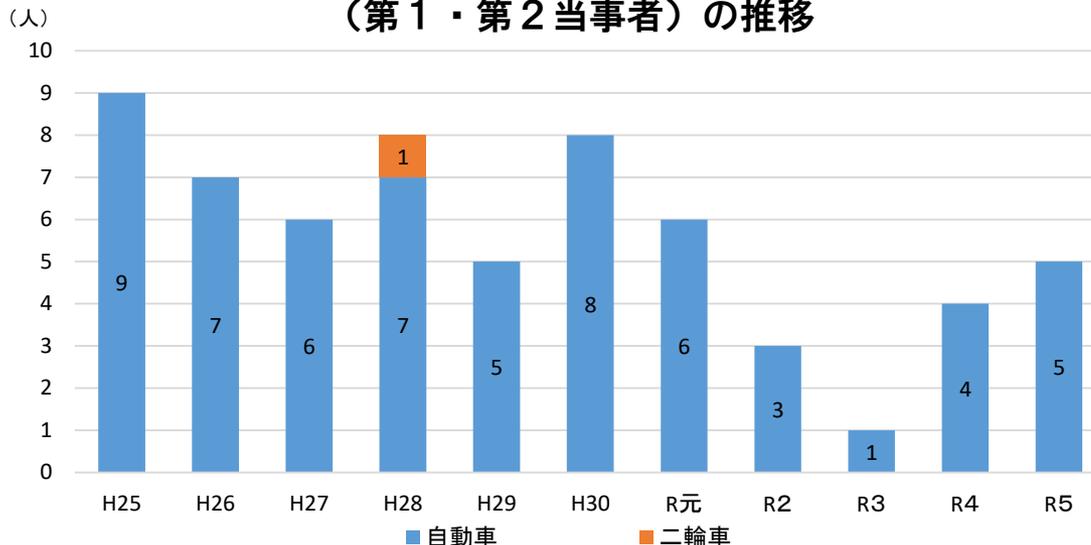
通行目的別二輪車乗車中死者数【令和元年～令和5年】



6-2 二輪車乗車中死者数の状況

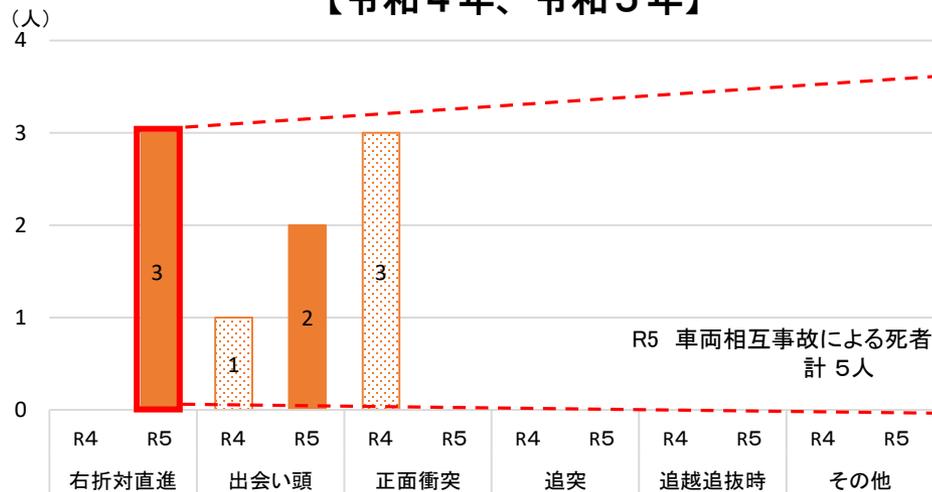
- 車両相互事故における相手当事者のほとんどを「自動車」が占める
- 事故類型別では「右折対直進」の事故が増加(全て二輪車側が直進)

車両相互事故における相手当事者別二輪車乗車中死者数
(第1・第2当事者)の推移



車両相互事故による二輪車乗車中死者の事故類型内訳
【令和4年、令和5年】

〈右折対直進事故における二輪車の行動類型〉



直進
3人
100%

7 特定小型原動機付自転車関連交通事故の状況(全国)

- 特定小型原動機付自転車の事故は長野県での発生はなし。
- 全国の特定小型原動機付自転車の事故件数は令和5年7月以降で85件、負傷者数は86人
- 相手当事者は「四輪」が約3割、「歩行者」が2割、「自転車」が約1割 ● 東京都、大阪府で多く発生

特定小型原動機付自転車に関連する交通事故件数・死傷者数

	事故件数	死者数	負傷者数
令和5年(7月)	8	0	8
令和5年(8月)	11	0	11
令和5年(9月)	22	0	23
令和5年(10月)	19	0	19
令和5年(11月)	11	0	11
令和5年(12月)	14	0	14
合計	85	0	86

相手当事者別(令和5年7月~12月)

相手当事者 \ 月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
単独事故	4	4	9	7	4	6
四輪	1	3	5	4	5	6
歩行者	2	2	7	4	1	1
自転車	1	2	1	3	1	1
二輪	0	0	0	1	0	0
合計(件)	8	11	22	19	11	14

都道府県別(令和5年7月~12月)

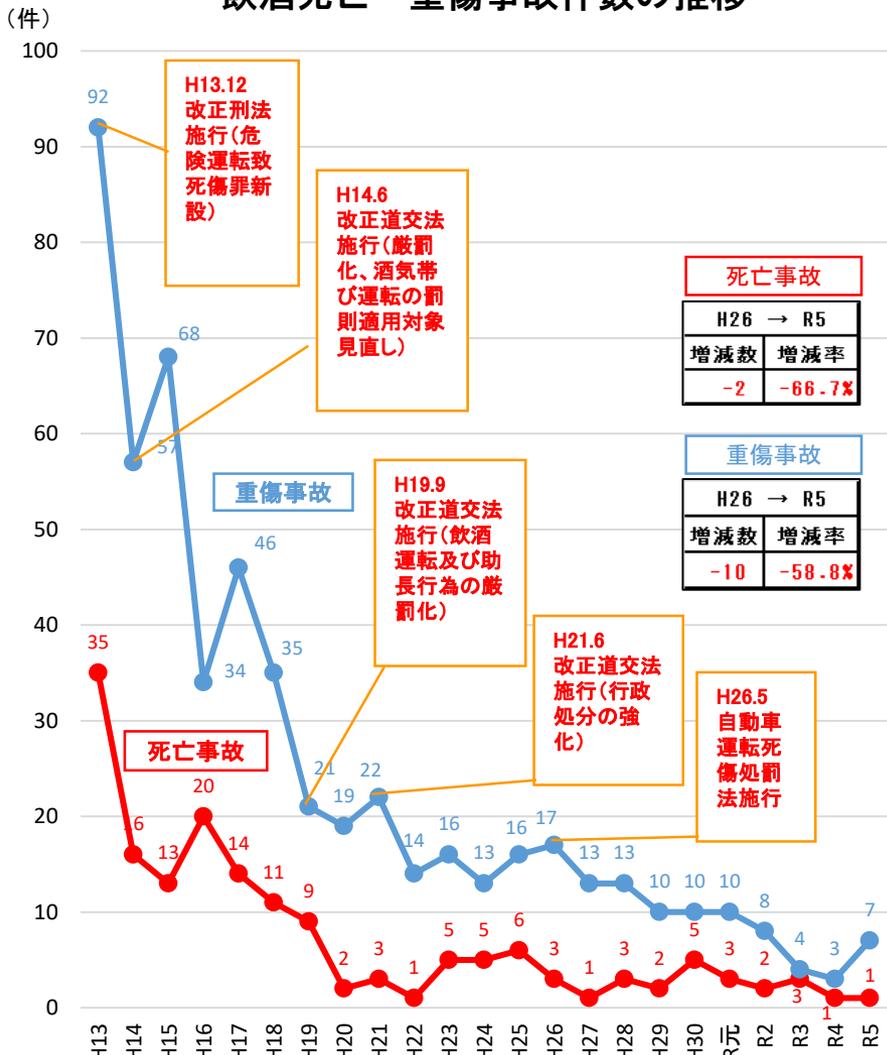
発生場所 \ 月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
東京都	7	9	18	16	10	11
大阪府	1	2	4	2	0	3
その他	0	0	0	1	1	0
合計(件)	8	11	22	19	11	14

(注) 特定小型原動機付自転車が第1当事者又は第2当事者となった人身事故で、警察庁に報告のあった件数を集計した。

8 飲酒運転による交通事故の状況

- 飲酒運転による死亡事故は前年同数だったが、重傷事故は増加
- 通行目的は「観光・娯楽」、「送迎」、「買物」などが増加
- 飲酒事故における死亡事故率は飲酒事故以外と比較して約4.8倍

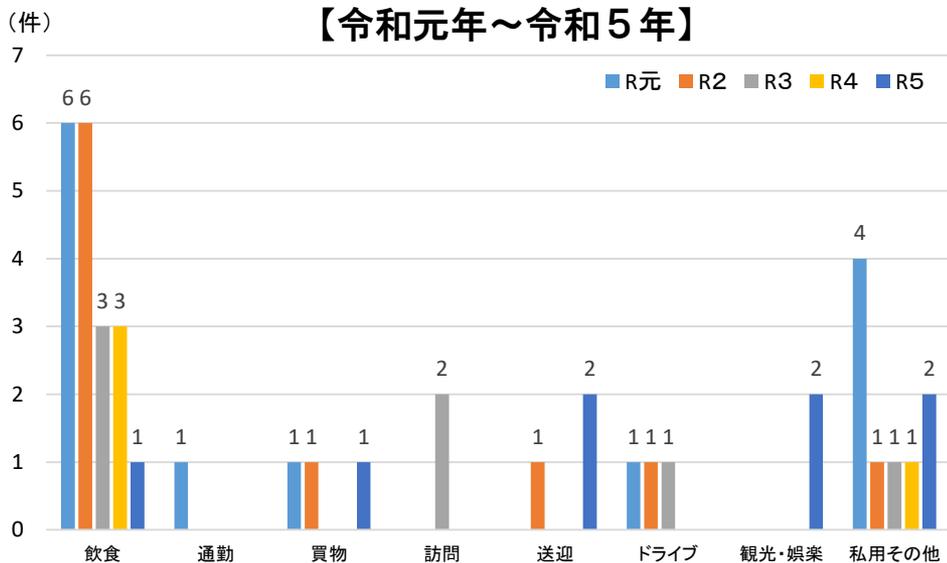
飲酒死亡・重傷事故件数の推移



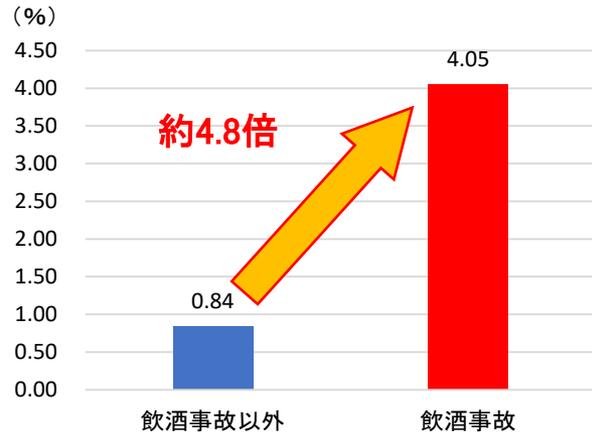
死亡事故	
H26 → R5	
増減数	増減率
-2	-66.7%

重傷事故	
H26 → R5	
増減数	増減率
+10	+58.8%

通行目的別飲酒死亡・重傷事故件数【令和元年～令和5年】



飲酒有無別死亡事故率比較【令和元年～5年】



(注)・第1当事者が原付以上の件数である。
 ・「飲酒死亡・重傷事故」とは、第1当事者の飲酒状況が酒酔い、酒気帯び、基準以下、検知不能のいずれかに該当する場合の死亡・重傷事故をいう。
 ・通行目的は、その目的を果たして帰る途中(復路)であっても、他に目的がない場合は往路の目的となる。
 ・「死亡事故率」とは、第1当事者が原付以上の交通事故件数に占める死亡事故件数の割合をいう。